

(地方公共団体名) の 概要・特徴等

平成16年10月21日に、6町村(石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村、春日居町)が合併し、笛吹市となり、平成18年8月1日には芦川村と編入合併し、現在の笛吹市となりました。人口68,733人、29,767世帯(令和2年9月末現在)で、高齢化は29.84%です。日常生活圏域は3圏域。職員数は600人弱(特別職を除く)です。甲府盆地の中央部やや東寄りに位置し、標高267m、面積201.92km²、桃とぶどうの栽培面積、収穫量、出荷量いずれも日本一。石和温泉郷、春日居温泉郷を拠点に公営温泉施設等が5か所あります。

解決したい地域課題

課題分野：①データ利活用による医療・介護・健康施策の一体的な推進
②高齢者のICTリテラシー向上
③高齢者の外出支援・移動手段の確保

【課題】

①『ふえふきいきいきプラン(笛吹市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画)』の実施にあたり、保健福祉部内外に存在する各種データの整理やそれらの紐づけ、有効活用が出来ていない状態です。データの整理や突合、今後の施策への活用に関する知見・支援を得ることが直近の課題です。

②高齢者に関する必要なデータを効率的に得ることやスマホを用いたボランティアポイント付与等の効果的な活用が出来ていない現状があります。(例えば、将来的にスマホを使った健康ポイントの管理等ができることとよい)また今後ICT・IoTを絡めた施策を実施する上で、高齢者のICTリテラシーが重要になると考えます。そのため、高齢者のスマホ保有状況等の把握とICTリテラシー向上策の検討が課題です。

③本市で実施した調査結果より高齢者の移動手段に関する要望の多さが顕在化しました。市には電車の駅が2箇所のみで、移動手段の大半はタクシーやバスが多く、高齢で免許を返納された方や自動車を持たない方にとっては移動手段が大きく制限される現状があります。そのため、市内のタクシー事業者や市民ボランティアの方などと連携し効率的に高齢者の移動手段を確保することが課題です。

【補足説明】

本市では、現在、ふえふきいきいきプラン(笛吹市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画)を策定しています。第7期計画では「健康でいきいきと暮らせる人づくり・環境づくり」において、「地域活動や高齢者の活躍の場づくりの推進」として、高齢者自身の健康増進や介護予防・生きがいづくり・居場所づくりをすすめ「いきいきサポーター」や「フレイルサポーター」への参加促進、「シルバー体操指導員」の活躍の場づくりを行っています。地域活動への参加促進、高齢者の外出促進、シルバー人材センターの活用等の高齢者の就労支援、生活支援や介護予防の担い手としての活躍の場の促進、を目指しています。しかしながら、限られた職員や財政で、ICTの利活用により効率的に課題解決とDX化推進は難しいので、民間等からのアイデアを得たいと思います。

解決したい地域課題

(解決策のイメージ)

・行政データの連結と施策運営支援

⇒ 各種データの整理・収集・突合、データ分析に基づく施策の提案

・交通弱者、買い物難民等の支援

⇒ 配車要求を効率的かつタイムリーに民間交通企業等に知らせ、乗り合いができるツール

⇒ 一般住民ボランティアと困っている方の効率的なマッチング、コミュニケーションツール

⇒ 高齢者の運転をサポートするシステムやツール(運転技能訓練等も含め)

⇒ 災害時等の要支援者サポートシステム(救援ボランティアとの効率的なマッチングなど)

・高齢者のICT機器利用サポート

⇒ 一般住民ボランティアと機器の使い方で困っている方の効率的なマッチング、コミュニケーションツール

⇒ スマホ使い方動画の配信、スマホ教室の開催

ソリューション提案に対するアピールポイント

協働による福祉のまちづくりを推進するにあたり、タクシー事業者、バス事業者などの関係機関をはじめ、社会福祉協議会や市民ボランティア、地域の理解と協力が必要です。また、庁内においても、都市整備、福祉、住宅など横断的な事業の推進が不可欠です。このため、長寿介護課が積極的に庁内連携体制づくりを働きかけます。